

輸血部

部長 松下 正（教授）

あらゆる業種のメディカルスタッフに開かれることを目指して

常勤医師2名、非常勤医師1名、検査技師4名、看護師1名で構成し、あらゆる業種のメディカルスタッフに開かれた輸血部を目指しています。

業務内容

輸血用血液製剤の受注および支給、輸血に必要な検査業務、細胞治療に必要な幹細胞などの採取と保存、手術前患者の自己血採血と保存、その他、輸血療法に対する種々のコンサルテーション。

特色

手術中の大量出血に対する止血目的の血液製剤投与指針を提示しています。その他、DICをはじめとする凝固異常に対するコンサルテーション、アフレーシスによる末梢血幹細胞・単核球や血小板の採取・保存などを行っています。

取り組み

輸血療法のコンサルテーションにより血液製剤の適正使用を推進し、製剤（特に新鮮凍結血漿、血小板）の使用量を減少させています。未使用血液製剤の転用を促進し、廃棄製剤を大幅に減少させています。

先進医療・研究

先進的な再生医療の一環として、免疫細胞療法や血管再生治療のための幹細胞（末梢血および骨髄由来）採取と保存を行っています。また、インプラント治療の際の自己組織培養のため、自己血清を作製しています。



病理部

部長 中村 栄男（教授）

病気の診断に必要不可欠な病理診断を正確に提供する

当院の病理診断センターとして、正確で質の高い病理診断を通じ、安心・安全な医療の提供に努めます。

診療体制

常勤医師5名・非常勤医師2名（うち日本病理学会認定病理専門医6名、日本臨床細胞学会細胞診断専門医3名）、臨床検査技師9名（うち細胞検査士4名）、事務員2名です。

診療内容

生検・手術や細胞診検査で取られた組織を顕微鏡で観察して、病理診断を行います。病理診断は病気の診断に必要不可欠であり、治療方針の決定や予後推定にも重要な情報を提供します。不幸にして亡くなられた場合の病理解剖は、病気的全貌を明らかにするのみならず、新しい治療開発への重要な手がかりとなります。

得意分野

年間約1,000件と多数の術中迅速診断を行っています。術中迅速診断では、手術中に取られた検体を短時間で病理診断することにより、新たな情報を提供し、治療方針の決定に役立てることができます。

診療実績

昨年は年間、約14,000件の病理組織診断、約12,000件の細胞診断、また24件の病理解剖を行いました。医療水準の均てん化のため、他施設で診断された標本のセカンドオピニオン診断も積極的に受け付けています。

先進医療・研究

悪性リンパ腫をはじめとする造血器腫瘍など、特殊疾患に対しても診断・研究を行っています。

